新聞記事抜粋

新聞社名	山形新聞	発行年月日	2020. 10. 9

入院中の子ども元気に

山形・竹田和裁研究所製作協力 キワニス・ドール贈る

竹田和裁研究所（山形市）は山形キワニスクラブ（和田広会長）が入院中の子どもに贈る人形「キワニス・ドール」の製作に協力し、贈呈式が8日、山形市のパレスグランデールで行われた。同研究所の山本絵里子事業部長（山本学園副理事長）から和田会長にキワニス・ドールとドール用の着物が手渡された。

山形キワニスクラブは社会奉仕団体「国際キワニス」の県内組織で、昨年2月に発足した。キワニス・ドールは子どもを模した長さ約40㌢の白地の人形で、医師による子どもへの手術内容説明や自由に絵を描いて入院生活を楽しく過ごしてもらうために役立てられる。全国のクラブが製作と病院や子ども関連施設への寄贈に取り組んでいる。

同研究所は着物の仕立てを手掛ける。同クラブから指導を依頼され「人形の製作は難しい」と考え、和裁の指導者や上級の資格を持つ約60人が無償で完成品50体分、生地を縫い合わせた未完成品50体分を製作。生地を持ち寄りドール用の着物も作った。同クラブ会員は未完成品に綿を入れ、仕上げに縫う作業を担った。

贈呈式では、和田会長が「人形ばかりか着物も作ってもらい世界に誇れる。有効に使いたい」と謝辞を述べた。山本部長は「子どものためにプロの仕事を生かした。人形を見て少しでも元気になってほしい」と話した。（菅原武史）

キワニス・ドールを作った竹田和裁研究所の山本絵里子事業部長(左)と、受け取る山形キワニスクラブの和田広会長＝山形市・パレスグランデール